

支配と、住民による自治の三つの力がせめぎ合う場です。そこに学校、子育て、教育あるいは市民としての生き方や生きがいについて語り合えるグ

ループがたくさんつくられる支援をしたいと思いますし、そうした人たちが学校経営に参加できる制度が構想されなければならないと思っています。

コラム、どうする？ 中心市街地

「小松の中心市街地商店街の方向性について」

(株)こまつ賑わいセンター 商店街マネージャー
村中雅彦



商店街の弁慶参上！まちづくりには道化的要素も必要です。

小松は、量販店の出店計画が複数存在することからもわかるように、潜在的な消費需要は大きいと考えられています。

中心市街地の商店街の場合、体力的に量販店と同じ需要に応えることは不可能で、すみ分けが重要です。

小松中心市街地の商店街の中には、専門店の上に行く「超専門店」が何件か存在し、県外からも来店しています。（フェラーリに乗って来るお客さんも！）

これらの店舗を参考に、「使い捨てのものは量販店で、ここ一番のこだわりの品は商店街の専門店！」と選ばれる店を目指し、サポート体制を整えている段階です。

一方、市街地の居住人口が減る中、日用品を扱う店は成り立たなくなりましたが、車での移動を前提とした量販店には通えない高齢者が多いのも事実。

そこで、日曜日だけ八百屋さんを誘致。露店を開いていただいたところ定着。空き店舗を買い取り、魚屋・パン屋も呼び込み、日曜日の午前中は毎週大盛況です。

週1回だけの開店というのもメリハリがあって良いようで、特に「八百屋のオヤジとのかけあいが毎週楽しみ」というお客さんが大半です。

こだわりのある人も満足。生活にも便利。小松の中心商店街は欲張りな再生へ向かっています。

（リレーコラム「どうする？ 金沢の中心市街地」は、本号から「どうする？ 中心市街地」に改題いたします。）